



平田ロータリークラブ 週報 ~ No. 2190 (令和 2 年 10 月 15 日)

Rotary



2020-2021 年度

国際ロータリー会長／ホルガー・クナーク
2690地区ガバナー／菊池 捷男

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F

TEL : 0853-63-3232 / FAX : 63-5365

URL : <http://hirata-rotary.jp/> Mail : office@hirata-rotary.jp

9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝日 休局)

ロータリーは機会の扉を開く

会長／釜屋 治男 副会長／堀江 卓男
幹事／原 泰久 会計／榎野 良文

■例会プログラム

例会日	卓話者	演題
10月15日	会員 重親 政継	平田高校野球部 甲子園出場に思う
10月22日	会員 飯塚 俊之	会員スピーチ
10月29日	議長 釜屋 治男	年次総会
11月5日	休会	

■出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
40	33	7 (4)	91.67 %

■欠席者

神田／大谷良／園山 (牧野／河原／伊藤／大谷厚)

■来訪者

10/8 石飛・持田・井上・金山・伊藤・板垣・浅津・石飛真・細田・川上
(出雲南) 堀江・中田・溝本・(松江しんじ湖)
後藤(松江) 中澤(松江南)

■メイクアップ

***** な し *****

■次回例会受付当番

(10月22日) 神田慎一／持田祐輔／小汀泰之

(10月29日) 飯塚詔夫／大谷厚郎／大谷良治

■近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう)

月	出雲中央 10/19(-) 11/9(-)	松江南 11/2
火	出雲 10/20(-)	松江しんじ湖 10/27 11/24
水	大社 10/28 11/4・25(-)	松江 11/25
木	(-) ; ビジター受付 なし	松江東 10/22 11/5
金	出雲南 10/30(-)	

■会長挨拶

10月17・18日の地区大会における新型コロナウイルス感染拡大対策についての留意事項についてお話をします。

まず「ヘルスチェックシート」に記入の上、回収ボックスに提出が必要です。次の事由に該当する方は、入場を断られる場合があります。

- ①新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状(37.5℃以上の発熱、呼吸器障害、味覚・嗅覚の異常など)がある
 - ②2週間以内に新型コロナウイルス感染症の患者、あるいはその疑いがある人と接触した
 - ③2週間以内に海外渡航した、あるいは海外滞在から帰国した
 - ④ご家族(同居・別居を含む)に①から③に当てはまる方がおり、2週間以内に接触した
 - ⑤「ヘルスチェックシート」をご提出いただけない方
- 会場では、こまめな手指消毒・手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保を求められています。

■幹事報告

1. ロータリーレートの変更 10/1 より 105 円(現行 106 円)

2. 休会

- 出雲 RC 10/20(火) 10/18 地区大会参加のため
ビジター受付 なし

- 大社 RC 11/4・25(水) 定款による

ビジター受付 なし

- 松江 RC 11/25(水) 定款による

ビジター受付 11:30 ~ 12:30 なにわー水(千鳥町 63)

- 松江東 RC 11/5(木) 定款による

ビジター受付 12:00 ~ 12:30 松平閣(千鳥町 38)

- 松江南 RC 11/2(月) 定款による

ビジター受付 12:00 ~ 12:30 松江エクセルホテル東急

- 松江しんじ湖 RC 11/24(火) 定款による

ビジター受付 12:00 ~ 12:30 すいてんかく

3. 地区大会について

10/18(日) 商工会議所 6:30 集合・出発

出席の皆様、服装は上着・ネクタイ着用でお願いします。

10/7に 理事1名の立候補、推薦がございました。

よって他8名の選任を 現理事をもって指名委員といたします。

■委員会報告

情報・雑誌委員会 : ロータリーの友 10月号の紹介

■スマイル

釜屋・原泰 (重親会員、スピーチよろしくお願いします。)

田中 (重親会員本日のスピーチよろしくお願いします。平田高校の甲子園交流試合の興味深いお話が聞けると思います。)

お礼

遠藤 寛 様 (この度 父の葬儀に際しまして会員の皆様より仏前には御香資を賜り厚くお礼申し上げます。会員の皆様から長年にわたり父に賜りましたご厚情に感謝致しますと共に平田ロータリークラブ様の今後益々のご発展をお祈り致します。)

■例会プログラム

「平田高校野球部 甲子園出場に思う」

重親 政継 会員

本日はスピーカーという貴重な役割を頂きました。早いもので昨年の8月8日に新入会員スピーチをさせていただきましたが、1年が過ぎ2回目のスピーカーとしての登場となりました。何卒よろしくお願い致します。

まずは、少し金融機関の立場としてコロナ関連のお話をさせていただきます。コロナウィルスの騒動以降、我々としましては、まずは島根県の制度資金を中心に「資金繰り支援」を精一杯ご支援してまいりました。しかしながら、ここまで長期化してきますと我々の対応は「資金繰り支援」から「事業支援」へと転換してきている状況にあります。具体的には、ウィズコロナの中での、事業戦略の転換のお手伝いや、経営改善につながる支援活動を具体化していくお手伝い等が求められてきています。

私ども営業店はもちろんのこと、専門部署や外部機関との連携も含め、お取引様のお役に立つ活動に邁進していく所存でございますので、何なりと



ご相談いただきますようお願い申し上げます。

それでは本題の方に移させていただきます。これからは個人的な話になりますが、どうぞお許しいただきますようお願いいたします。

この夏 私の夢がまた一つ叶いました。皆様方にも多方面からご支援をいただきました平田高校甲子園初出場でございます。

昨年の新入会員スピーチの場で「私の趣味は子供の部活の応援です」とお話をいただきました。現在社会人一年目になる長男が大学まで野球を続けてくれましたし、大学2年生になる長女も現在もバレーボールを続けてくれています。そして高校3年生になる次男がここまで野球を続けてくれましたので、ひどい時には妻と半日ごとに行ったり来たりする日々が続きました。今となっては何もすることがなくなった休日の退屈さに安堵するとともに、少しさびしさを感じております。

平田高校野球部甲子園出場につきましては皆さまもご存じの通りコロナウィルスの影響で紆余曲折がありました。この場をお借りしまして少し振り返ってみたいと思います。

昨年の秋大会では、強豪大社高校、立正大湊南高校、開星高校を次々撃破し、決勝では矢上高校に惜しくも敗れはしましたが準優勝として2年連続の中国大会出場を決めました。中国大会でも尾道商業を破り、鳥取城北高校に敗れはしましたが見事ベスト8の結果を残し2年連続で21世紀枠候補として1月24日の高野連の発表を待つことになりました。因みに21世紀枠の1回目の選出時のキャプテンが長男でしたので、我が家としても大変縁を感じたところでした。

そして1月24日14時30分からの発表ということで、私ども父兄はプラタナス会館でその発表を待ったところでした。運命の発表時、学校の事務室から割れんばかりの拍手が起こり、我々の控えるプラタナス会館へ決定の知らせが届きました。親も本当に泣きながら、まだ今ほど蜜を言わない時期でしたので抱き合って喜びました。

さあ甲子園だ！ 親子ともどもそう思っていたところ、コロナウィルスの影響は日々刻々と状況が悪化し、ついに3月11日夢に見 あこがれ続けやっとな勝ち取った甲子園という夢舞台が中止という決定がなされました。今でも覚えています。親も学校に集まり落胆する子供たちにどう声をかければいいのか…。甲子園に行ったメンバーのうち、我が子を含め西野スポーツ少年団生が6名いたのですが、実は高校3年生のメンバーが小学校4年生から6年生まで私もコーチを頼まれ一緒にグラウンドで野球をやっていた関係で、子供達は今でも私のことを「しげさん」と呼ぶのですが「なんて声をいい分からないので重親さん頼むわ」と言われ、西野のメンバー中心に声をかけました。「残念だったな。夏があるけん頑張り！」精一杯の声掛けでした。子供の中には泣きじゃくる子供もいましたが「おかんになんて声をかければいいのか」とむしろ落胆する親のことを心配する子供が多かったことを覚えています。

落胆を引きずりながら夏の選手権大会へ気持ちを切り替えていかなければならない中、コロナウィルスは一層深刻化し、ついに4月7日には緊急事態宣言が発令され、練習はもちろんのこと学校も休校となり部員の不安は更に大きくなっていきました。

そしてついに5月20日夏の選手権大会中止の連絡が入ります。特に3年生は「もう何とせずに高校野球が終わるのか」と今までにない大きな不安、無念さを感じたことに間違いありません。同じ時期にインターハイ予選等の中止も決定され、同じ3年生でも試合なく引退せざるを得ない同級生を横目に、ただただ試合が行われることを祈る毎日であったと記憶しています。

お蔭様で県レベルの大会が開催されることとなり、部員たちはもちろんのこと親にとっても大変うれしく感じました。

そうしていたところ6月10日にはセンバツ大会の代替試合開催の発表がなされ1試合だけでも諦めていた憧れの聖地甲子園に立てることが決定し、子供たちの目の色も変わり練習にも俄然活気が生まれました。

しかしながら、どのチームもでしたが長く十分な練習が出来なかった影響は大きく、練習試合でも苦戦が続きました。「こんなに甲子園に行っても大丈夫なのか？」子供達も不安が大きかったと思います。

県レベルの夏の大会が始まり、順当に1回戦仁万高校2回戦江津工業高校に勝利し、迎えた相手は開星高校。開星高校としては秋に負けた平田高校ゆえに絶対負けられない試合であったと思います。結果善戦むなしく敗退しました。

しかしながら、平田高校野球部は終わりではありませんでした。夢にまで見た甲子園です。長崎県代表の創成館高校との対戦も決まり甲子園に向けた機運が高まっていきました。

迎えた8月10日12時からの出発式。たくさんの地元の皆様に見送られ、地元の太鼓や吹奏楽の皆さんからの力強い応援もいただき「頑張て来いよ」との声を背に甲子園に向けて出発しました。地元のみなさんにここまで応援いただき、地元の宝と言わんばかりに熱く送り出していただけたこと本当に鳥肌が立つ思いでした。

我々父兄は翌日8月11日早朝5時にバス3台に便乗しコロナ対策をしっかりとる中で出発しました。夢の聖地甲子園に行けるという思いはまさに子供にかえた気持ちでした。蒜山、三木パーキングで休憩し、三木パーキングでは甲子園側の OK がでるまでは待機という状況でした。甲子園では歩いて20分程度の所にバスは停車し、歩いての移動となりました。その移動に際してもコロナ対策のため蜜にならないように素早く移動が徹底されていました。前の試合の7回頃にレフトスタンドに入れていただき、前の試合を見ながら次の試合を待っていました。ちなみにお土産も我々は3塁側でしたので、前の試合の7回以降、自分たちの試合の6回が終わるまでは平田高校のグッズが置いてあるという状況でした。さすが土産屋においても平田高校の父兄だけで、ここにもコロナ対策が施されていました。

いよいよ前の試合が終わり3塁ベンチ上へ移動するよう指示を受けました。そうすると、見慣れた顔の連中が平田高校のユニフォームをまとい甲子園の中に現れました。本当に涙が出ました。ついに聖地に来たのだと。

今回妻と長男と3人で応援に行きましたが、長男は平田高校のユニフォームを着ての応援でした。母校が甲子園に出ていることへの誇らしさが存分に感じられました。

結果は体格も全然違う相手に善戦むなしく0対4で敗北しました。でも一生懸命やり切った彼らには涙はなかったと思います。本当にさすがしく幸せいっぱいな気持ちであったと思います。

我が家個人的に見れば親としては打席に立って欲しかったというのが本音ではありますが、事前にチャンスは十分にもらいながら結果がでなかったことを次男自身が一番承知していたのだと思います。実際にはつらつと一塁コーチャーをやり遂げていました。

自宅に帰り一息つく頃電話がなりました。ある方からの電話でした。「お疲れさん。子供を叱ってはだめだぞ、一番悔しいのは子供だけん、お疲れ様とほめてやれ！」と…。大変救われた電話で涙が出ました。次男が試合に出れなかった悔しさを引きずっていた私にとっても支えの言葉であり、気づきのことばでもありました。試合に出れず一番悔しい思いをしているのは次男であるのも事実です。「メンバーとして甲子園に連れていってくれて本当にありがとう！」そうした気持ちをもって8月12日の到着式を迎えることができました。

平田高校甲子園出場に際しては本当に地元の皆様方の多方面にわたるご支援いただきました。父兄会長に代わり改めてお礼申し上げます。またコロナウィルスの影響下、当たり前のことが当たり前にいかないもどかさや悔しさを痛いほど経験し、子供達自身も大きく成長していったと思います。今回改めて甲子園決定から出場に向けて振り返らせていただきました。子供達もこれからは平田高校野球部のOBとして後輩をしっかりサポートできる人間に成長して欲しいと思っています。